

令和 6 年度 陽西中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

豊かな心と健やかな身体をもち、自ら考え行動するなど、意欲をもって自主的・創造的に生きることができ、日本はもとより国際社会に貢献できる人間を育成する。

（2）具体目標（目指す生徒像）

- ・敬愛の心があつく心情豊かな生徒
- ・よく考え主体的に行動できる生徒
- ・体力気力の充実した健康な生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

グローバル社会の進展、情報社会・科学技術の進展、持続可能な社会づくりへの対応、感染症の影響や自然災害の激甚化など、これからの社会は予測を超えた変化が起こることが想定されている。このような中で学校の使命は、生徒に確かな学力をつけ、豊かな心を育むとともに、激動の社会を生き抜くために必要な「生きる力」を確実に身に付けさせることである。

このために、総括的な目標として「夢や希望に向かって挑戦するたくましい生徒の育成」を掲げ、人権尊重の精神を基盤に全教育活動を通じて、「認めてほめて伸ばす指導」の充実を図りながら、生徒の「自己肯定感」を高め、自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒を育成したい。

教職員は、「教職員の生き方改革」と「学校における働き方改革」を推進し、業務の効率化や労働時間の適正化を図るとともに、同僚性を高め、組織力と専門性の向上を目指す。

＜目指す学校像＞

- ・笑顔と潤いがある学校
- ・感動と活力にあふれる学校
- ・地域とともに歩む学校

＜目指す教職員像＞

- ・人間性豊かで信頼される教職員
- ・使命感と情熱をもつ教職員
- ・幅広い教養と専門性を身につけた教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

重点目標 「夢や希望に向かって挑戦するたくましい生徒の育成」

（1）確かな学力の育成

- ・全ての生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得することができるよう、宇都宮モデルによる授業を展開し、活動のねらいを明確にしながら、「対話」を通した主体的で深い学びを促進する。
- ・生徒の実態を踏まえた指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習を充実させ、生徒一人一人の確かな学力の育成に努める。

（2）潤いと活力がある学校づくり

- ・命や思いやり、感謝の心などに指導の重点をおいた「心の教育」を全教育活動において実践し、充実する。
- ・どの生徒にも温かい雰囲気を受け入れる思いやりのある学級づくりに努めるとともに、個に応じた多様な居場所を確保する。
- ・時間を意識した学校生活に重点を置きながら、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ・道徳科、読書活動、あいさつ運動、交流活動等の充実を図り、やさしさと思いやりにあふれた心の教育を推進する。
- ・学校行事、部活動、体験活動等を通して社会性を養い、生徒会活動、学級会活動、清掃活動等を通して自治意識を高めるとともに、挑戦する心、あきらめない心、困難を乗り越えようとする強い意志などのたくましさを涵養する。

（3）地域とともに歩む学校づくり

- ・学校情報の積極的な発信と地域教育資源の活用，地域学校園・小中一貫教育の推進と地域協議会等との連携，生徒の地域貢献活動の実践等による，地域とともにある学校づくりを推進する。
- ・文教地区の強みを生かし，地域に根ざした豊かな食農体験活動や近隣高校との連携を図ったキャリア教育を推進する。
- ・保護者や関係機関等との連携を図り，生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導やインクルーシブ教育の充実に向けた特別支援教育の推進に努める。

(4) 教職員の「生き方・働き方改革」の推進

- ・「学校における働き方改革」を推進し，業務の効率化や労働時間の適正化を図る。
- ・教職員の使命を自覚し，同僚性を高めながら，組織力と専門性の向上を目指す。
- ・定年延長制の導入を機に，仕事と私生活を見つめ直す「生き方改革」を進め，各教職員がウェルビーイング（すべてが満たされ，継続性のある幸福）を追求する。

[陽西地域学校園教育ビジョン]

『自己の「よさ」を生かすとともに他者を尊重し，粘り強く頑張る子どもの育成』
～協働的な学びを通して，自己肯定感を育む教育活動の推進～

4 教育課程編成の方針

- ・「学習指導要領」の趣旨に則り，「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」のバランスの取れた育成を目指す。
- ・学校経営方針のもと，教育目標の実現を目指すとともに，「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」，「令和6年度指導の重点」等を踏まえながら，教科横断的な視点で各教科等の関連付けを図った教育課程を編成する。
- ・学校課題や重点目標，特色ある学校づくりを具現化した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- 教職員の学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営を推進する。
- ・教育目標実現のための学年・学級目標の設定，具体策の明確化と実践に努める。
- ・今年度の重点目標を「命や思いやり，感謝の心などに指導の重点をおいた「心の教育」を全教育活動において実践し，充実する。」として，教育活動を展開する。
- 必要な学習機会や体験活動等を精査し，教育活動を充実する。
- ・ICTを活用した業務改善を推進し，事務業務の負担軽減を図り，教職員の勤務意欲を向上させる。

(2) 学習指導

- 確かな学力の育成を目指して，学習指導要領に基づき，教育活動のねらいを明確にし，わかる授業・できる授業の実践と生徒一人一人の良さを生かす活動の充実に努める。
- ・習熟度別学習，ティーム・ティーチング，重点的な指導や繰り返し指導，一人一人の生徒の理解の程度や興味・関心に応じた指導など，指導方法・評価方法を工夫する。
- ・帯時間や放課後等を活用して，基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた補充学習等を効果的に行い，授業中に身に付けた知識・技能のより確実な定着を図る。
- ICTを効果的に活用し，個別最適な学びを実現するGIGAスクール構想を推進する。

(3) 児童生徒指導

- 時間を意識した学校生活に重点を置きながら，基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ・教職員は生徒との信頼関係を構築し，魅力にあふれ安心して生活できる学校づくりを推進する。
- ・生徒主体のいじめ根絶集会や道徳家の授業等において，生徒自らがいじめについて考え，意見を交わし，いじめと向き合うことにより，生命や人権を尊重し，差別やいじめを許さない態度を身に付けさせるとともに，規範意識の醸成を図る。
- ・日々のコミュニケーションに努めることはもとより，年5回の「家庭でのいじめ悩みアンケート」や年2回の教育相談と三者懇談，宮っ子ダイアリーの活用などを通して，問題行動の未然防止やいじめゼロを目指す。
- 心の教育の充実により，自信や自己有用感，たくましさ，規範意識，思いやりなど，豊かな心を育む。

- ・定期的にケース会議（教育相談、生徒指導、特別支援）を開き、担任をサポートするチーム支援を行う。
- ・インターネットに起因するいじめやトラブルの未然防止に努める。
- ・何事においても早期発見・早期対応に心がけ、早期解決を図る。

（４）健康（体力・保健・食育・安全）

- ・保健体育科の授業を中心に、様々な運動を経験し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図る。
- 食に関する正しい知識や正しい食習慣を身に付けられるよう、組織的に食に関する指導に取り組む。
- ・避難訓練や交通安全教室を通して、安全を確保するための判断力や実践力を育成する。

（５）学校における働き方改革

- ・「宇都宮市学校における働き方改革アクションプラン～第２次アクションプラン（令和６年３月見直し）～」に基づいた取組を進める。
- ・ミライムを活用した教職員の時間管理を定着させるとともに、定期的に学校・学年・個人のリフレッシュデーを実施して学校全体の超過勤務を縮減し、一人一人が健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。
- ・年度途中における校務分掌の見直しを行い、校内の業務の適正化（明確化、効率化、簡略化等）を図る。
- ・諸表簿の電子化の運用を積極的に進めるなどＩＣＴを活用した業務改善を推進し、事務業務の負担軽減を図る。
- ・学校独自に自動採点ソフトを導入し、採点事務の時間を削減するとともに、学力分析による学力向上を図る。

６ 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

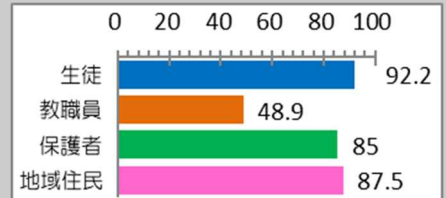
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価										
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 生徒の肯定的回答 ともに85%以上	① 「主体的・対話的な深い学び」を意識した授業改善に努め、「学び合う」ことで学習が深められるような授業の展開を工夫し、実践する。 ② 定期テスト前の質問学習やテスト、予想問題の作成、学習サポート、教科部会の効果的実施等学校体制として取り組む。 ③ 家庭との連携を図りながら、自主学習ノートや補充プリントの指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><th>対象者</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>生徒</td><td>90.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>46.7</td></tr><tr><td>保護者</td><td>74</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>-</td></tr></table> ・生徒の90%は肯定的に捉えているが、教職員は46.7%と目標を大幅に下回っており、生徒と教職員の認識には大きな差がある。 【次年度の方針】 ・家庭学習の習慣化を図るために自主学習ノートの指導を行う。また、自主学習用のプリントを用意するなど生徒が取り組みやすい環境を整える。 ・様々な学習形態を工夫し、「対話」を取り入れた協働的な学びを活かした授業づくりに努める。 ・教科部会で、生徒の学習意欲を引き出せるような指導法の実践例やICTの有効な活用法などについて共通理解を図る。 ・自主学習の取り組み方について、授業の中で説明し、実践させる機会を設ける。また、生徒が自主学習の有用性を実感し、主体的に学習に取り組めるよう支援する。	対象者	達成率 (%)	生徒	90.1	教職員	46.7	保護者	74	地域住民	-
対象者	達成率 (%)													
生徒	90.1													
教職員	46.7													
保護者	74													
地域住民	-													

A2 生徒は、思いやりの心
をもっている。
【数値指標】
全体アンケート
教職員の肯定的回答
85%以上

- ① 研修会・ローテーション道德を計画的に行い、講話等で得た内容を生かした道德授業を実践する。
- ② 授業の中で、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を身につけ、よりよい行動に結びつくよう支援する。
- ③ 生徒が自分の良さを認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し思いやりをもった言動ができるようにする。

【達成状況】



・生徒の 92.2%は肯定的に捉えているが、教職員は 48.9%と目標を大幅に下回っており、生徒と教職員の認識には大きな差がある。

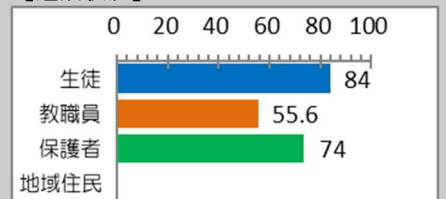
【次年度の方針】

・道德の授業や日々の友達との生活での経験を通して、「命」や「思いやり」、「感謝の心」などに重点を置いた心の教育を全教育活動において実践する。深く考えさせるよう促し、生徒の優しい心を育むとともに、自己肯定感の醸成に努める。
・学校のあらゆる教育活動を通して、思いやりの心について学んだことが日常生活で実践につながるよう、声かけや雰囲気づくりを学校全体で取り組んでいく。

A3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。
【数値指標】
全体アンケート
生徒の肯定的回答
教職員の肯定的回答
ともに 80%以上

- ① 学年・学級・生徒会専門委員会・部活動ごとに目標を決めたり、学校行事のスローガンを設定したりすることにより、目標を明確にするとともに、協力して目標に向かって努力する態度を育成する。
- ② 各学級・専門委員会・部活動において、振り返りを行わせ、生徒自らの取組を今後に生かす指導を充実させる。

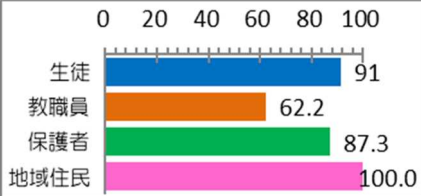
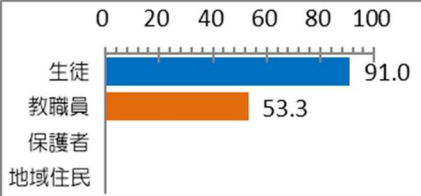
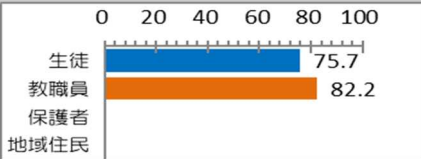
【達成状況】

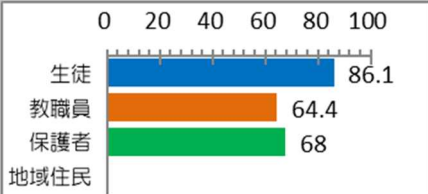
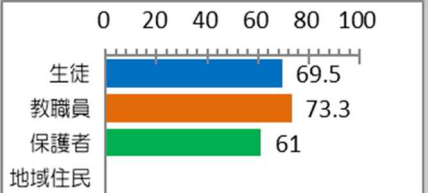
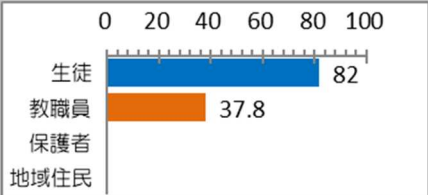


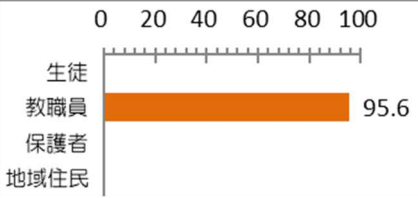
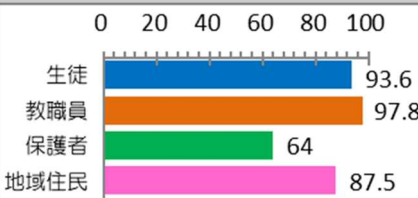
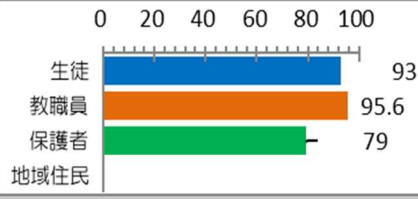
・生徒の 84%は肯定的に捉えているが、教職員は 55.6%と目標を大幅に下回っており、生徒と教職員の認識には大きな差がある。

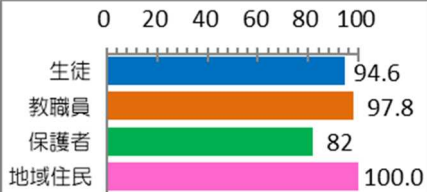
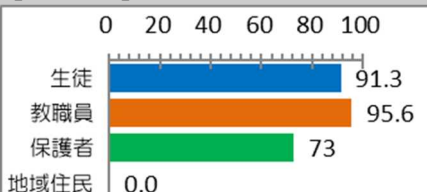
【次年度の方針】

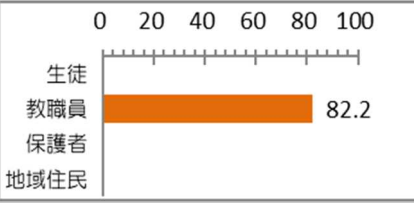
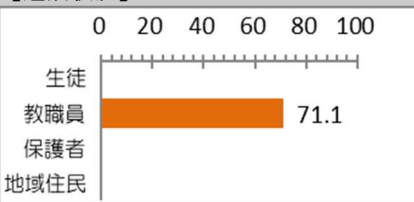
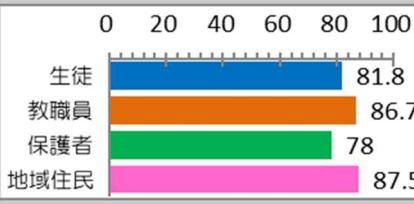
・学級活動や総合的な学習の時間、学校行事を通して、目標をもつことや自己理解、将来の夢の実現に向けて努力することの大切さを考えさせる。
・「Willナビ」等を活用し、生き方や夢の実現に向けて努力することの大切さを考える場面を設定する。

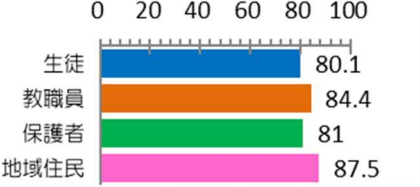
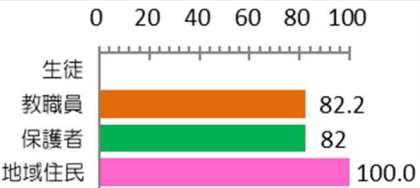
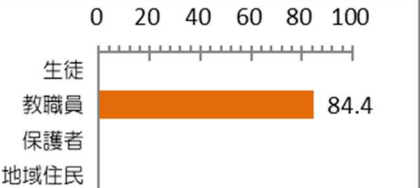
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 85%以上	① 「うつのみや元気っ子プロジェクト」を活用するなど、食育や体育的活動の充実を図り、自分に合ったバランスのよい食生活をするとともに、体力増進に努めるなどして、生涯を通して健康な生活を送ろうとする態度を育成する。 ② 「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」「がん教育講演会」「いのちの授業」「性教育出前講座」等を実施して、健康や安全への意識の向上を図る。	【達成状況】  ・生徒の91%は肯定的に捉えているが、教職員は62.2%と目標を大幅に下回っており、生徒と教職員の認識には大きな差がある。 【次年度の方針】 ・お弁当の日や給食指導を中心にした食育の強化及び体育の授業内での体力増強プログラムの実施、また外部講師による出前講座の活用で、生徒が健康・安全に過ごすことができる能力向上のための取り組みを推進する。 ・「うつのみや元気っ子プロジェクト」に則り、健康、体力、食育、安全の4つの柱から総合的に生涯を通じて健康で安全な生活ができる能力の育成に努める。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答ともに80%以上	① 進路学習やキャリア教育の充実を図りながら、自分の良さや個性を理解し、将来の夢をもたせ、夢の実現に向かってあきらめずに努力する態度を育成する。 ② キャリア教育の一環として、地域や卒業生等の講演会を行い、生徒の意識向上を図る。 ③ 地域性を利用した高等学校との交流を図る。	【達成状況】  ・生徒の91%は肯定的に捉えているが、教職員は53.3%と目標を大幅に下回っており、生徒と教職員の認識には大きな差がある。 【次年度の方針】 ・「WILLナビ」等を活用し、生き方について考えながら、自分の良さや個性を理解し将来の夢を持たせるよう考える場面を設定する。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 英語科の授業において、英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動を多く取り入れる。 ② A L Tの学校行事等への参加を通して、生きた英語に触れる機会を充実させる。	【達成状況】  ・教職員は82.2%と目標を上回っているのに対し生徒は75.7%と下回っている。 【次年度の方針】 ・英語科の授業において、英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動やA L Tと直接やりとりをするような場面を設定する。 ・休み時間や学校行事におけるA L Tとの交流を通して、生きた英語に触れる機会を一層充実させる。

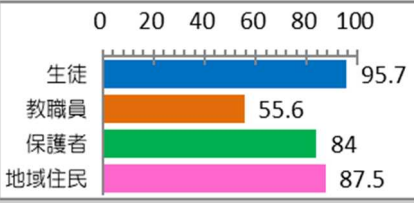
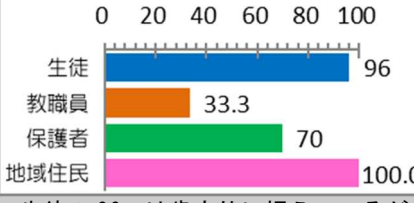
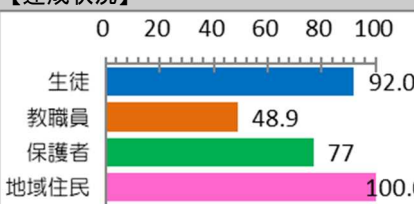
	A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 生徒が地域でのボランティア活動に積極的に参加し、地域の人々との交流を図りながら、地域に関心を持ち、地域の良さを知ることができるように充実を図る。 ② 「総合的な学習の時間」における地域を知る活動（宇都宮学）の充実を図る。 ③ 給食の献立に「地産地消」の食材を用いるようにし、栄養教諭による献立の説明で宇都宮の農産物について理解・関心を深めさせる。	【達成状況】  生徒 86.1 教職員 64.4 保護者 68 地域住民 ・生徒の 86.1%は肯定的に捉えているが、教職員は 64.4%と目標を大幅に下回っており、生徒と教職員の認識には大きな差がある。 【次年度の方針】 ・地域の人々とのボランティア活動（清掃活動等）を実施する。 ・地域を知る活動として宇都宮学を位置づけ、教科書をもとに、各学年、系統性をもって進める。また、各教科との連携を図る。 ・献立に旬の地域食材を生かしたメニューを取り入れる。また、給食時の放送を使って献立の説明を行うことで、地域の農産物を生徒に周知する。
2-（2） 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 80%以上	① 各教科等において、効果的な I C T 機器（個人用パソコン）の利用を促進し、学習効果を高める。 ② 図書館司書の授業参画を図ったり、生徒会専門委員会の活動を工夫したりするなど、図書館の利用促進を図る。	【達成状況】  生徒 69.5 教職員 73.3 保護者 61 地域住民 ・生徒・教職員ともに肯定的回答が目標を下回っている。特に生徒は 10%以上低い。 【次年度の方針】 ・GIGA スクール構想により、I C T 機器の活用を継続する。 ・1人1台端末の利用をさらに活発にできるように啓発をしていく。 ・図書館司書の積極的な授業への参画を図る。
2-（3） 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 80%以上	① 生徒会活動や総合的な学習の時間等において、「SDGs」についての理解を深める学習を位置づける。 ② 生徒会専門委員会の活動を工夫し、環境問題に関心をもたせるために、節電・節水や3R活動を実践させるなど、身近なところからできることを意識させる。	【達成状況】  生徒 82 教職員 37.8 保護者 地域住民 ・生徒の 82%は肯定的に捉えているが、教職員は 37.8%と目標を大幅に下回っており、生徒と教職員の認識には大きな差がある。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間に SDGs の学習を位置づけるとともに、環境・防災を扱う授業を学級活動で取り入れる。 ・SDGs への取り組みに対し、教科横断的に学習できるよう配慮し、生徒自身が「持続可能な社会」についての興味関心を深められるような活動を取り入れる。

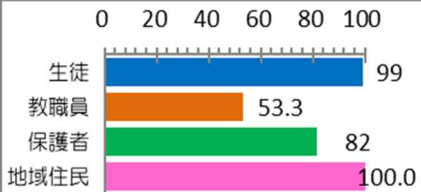
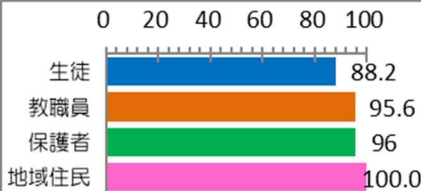
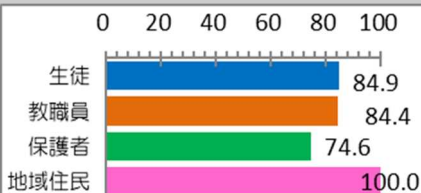
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別な支援を必要とする生徒について、必要に応じて指導カルテを作成したり、ケース会議を実施したりして、適切な支援ができるようにする。 ② 生徒指導部会や教育相談部会で、生徒の状況についての情報共有や意見交換を活性化させ、組織的・段階的な対応を検討する。 ③ 特別支援教育や WEBQU の活用についての研修を深め、合理的配慮への意識の向上を図る。	【達成状況】  生徒 教職員 95.6 保護者 地域住民 ・教職員の肯定的回答が 95.6%と目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・特別支援教育コーディネーターを中心として、個別の指導カルテの活用やケース会議の開催、部会等で生徒の状況について共通理解を図ることができた。また、必要に応じて他機関と連携しながら積極的支援を行う。 ・情報の共有を図り、必要に応じて他機関等との連携を図りながら、段階的・組織的な対応を行う。 ・生徒指導カルテやWEBQUの結果を、学年ケース会議などで活用する。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 保護者の肯定的回答 ともに 80%以上	① 生徒が相談しやすい環境を整備するとともに、教職員は生徒理解を深め、信頼関係の構築に努力することで、いじめの早期発見に努める。 ② 生徒主体の「いじめ根絶集会」を実施するとともに、教職員は「いじめはどの生徒にも起こりうる」との認識の下、いじめ防止対策についての取組をより充実させ、いじめの起こらない環境づくりに努める。 ③ 教職員が自らの人権感覚を磨くための研鑽に努め、いじめ防止に対する意識といじめに関する対応力を向上させるために校内研修を充実させる。	【達成状況】  生徒 93.6 教職員 97.8 保護者 64 地域住民 87.5 ・生徒及び教職員ともに目標を上回っており、特に生徒は昨年度より高い。 【次年度の方針】 ・いじめ根絶集会を実施し、未然防止のための取組を行う。 ・今年度の取組を継続し、生徒との信頼関係構築に尽力する。 ・いじめの起こらない環境作りに努め、「いじめ根絶集会」を効果的に学級への問題提示の機会とする。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 90%以上	① スタンダードダイアリーを活用したり、教育相談を行ったりして、生徒一人一人に寄り添った指導をする。 ② 保護者との電話連絡や必要に応じた家庭訪問を行うなどして、家庭との協力関係を構築する。 ③ 風通しの良い職場環境の維持に努めることで、気になる生徒の早期発見、早期対応を可能にし、校内支援体制を活用して、新たな不登校の生徒を生まないよう支援する。	【達成状況】  生徒 93 教職員 95.6 保護者 79 地域住民 79 ・生徒・教職員の肯定的な回答は高いが、保護者は 79%と目標を 10%以上、下回っている。 【次年度の方針】 ・ダイアリーの活用や教育相談で、生徒及び保護者との連絡を密に取り、生徒に寄り添った指導を行う。 ・生徒の心身の健康状態の変化等に対応するなど、新たな不登校生徒を生まないよう支援する。 ・風通しのよい環境の構築、また情報の共有と、多方面からの支援を行っていく。

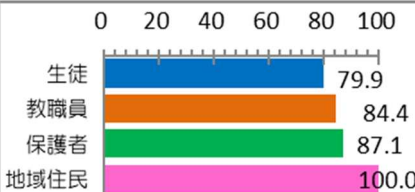
3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいきいきとした雰 囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 90%以上	① 学校行事等を通して、生徒が目的 意識をもって協力しながら主体 的に活動して達成感や自己肯定 感を得られるような場を設定し、 活動を支援する。 ② 生徒会活動を通して、生徒の自主 的な活動を推進するとともに、委 員会活動の活性化を図る。 ③ 学級経営や教育相談を充実させ、 「居がい」のある明るい学校づく りに努めるとともに、教職員間の 柔軟な意見交換を活性化させる。	【達成状況】  ・生徒・教職員の肯定的回答は高いが、 保護者は低い。さらに、保護者の目標数 値を高く設定しているため届かない。 【次年度の方針】 ・学校行事、生徒会活動は、生徒が主体 的に運営が行えるような場を設定する。 ・生徒会朝会の活動を充実させること で、生徒の活躍の場を確保する。 ・各学年共通理解のもと、学級経営の充 実を図り、教育相談体制の強化も図る。 ・教職員間で柔軟な意見交換ができる 環境作りに努め、活性化を図る。
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や生徒にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 90%以上	① 個に応じたきめ細かな指導を行 う。数学科及び英語科におい ては、習熟度別学習やT・Tなど、指 導形態を工夫し、学力を向上させ る。 ② 日々の授業で、学びのサイクル 「つかむ」「学び合う」「まとめる」 「振り返る」の効果的な活用を心 がけ、生徒が主体的に深く考え、 取り組めるような授業の展開を 実践する。 ③ 新学習指導要領の実施に伴い、授 業改善や評価計画の充実を図る とともに、「一人一授業公開研修」 実施により、教員の授業力向上に 努める。	【達成状況】  ・教職員に比べ生徒の肯定的回答は低 いが、目標は超えている。 【次年度の方針】 ・英語科・数学科では、習熟度別学習や T・Tなどの指導形態を工夫し、「ユニバ ーサルデザインの視点」を活かした授業 づくりを行うなど、個に応じたきめ細 かな指導を行う。 ・生徒の主体的で深い学びを実現する ため、指導法の工夫やICTの利活用に 取り組む。特に各生徒が持つタブレット やデジタル教科書を積極的に活用し、分 かりやすい授業の展開を工夫する。 ・「一人一授業公開研修」の実施、その 後の全体研修でのまとめ（振り返り）を 実施することにより、教員の授業力の向 上に努める。

4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 90%以上	① SC, MS, かがやきルーム指導員、学校図書館司書等との連携を強化しながら、チームとして生徒の状況の把握と支援に努める。 ② 配慮を要する生徒について、多様な立場や観点からの生徒の見取りや専門的な知見を、指導に生かす。	【達成状況】  ・教職員の肯定的回答は目標を大幅に下回り、さらに昨年度より 10%以上下回っている 【次年度の方針】 ・支援を要する生徒の対応において、SCMや特別支援教育コーディネーターが支援の窓口となり、学年や関係教職員、SC, MSと連携を図りながら、教育相談部会として支援の場や支援者を調整するなど、早期対応を図り、チームとして支援を行う。 ・配慮を要する生徒の支援の状況や方向性などを、全職員で共有することで、校内支援体制の強化に努める。
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 70%以上	① 教職員一人一人が、ミライムを活用して出退勤時刻の記録を確実にし意識を高めるようにする。 ③ 業務の見直しや効率化を図るとともに、会議や研修等の効率化と内容の精選を図る。 ④ 定期的に「リフレッシュデー」を設定したり、部活動の休養日を設けたりして、教職員の負担が軽減できるよう配慮する。	【達成状況】  ・教職員の肯定的回答は目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・職員へ定期的に周知し、出退勤記録等個人の意識の向上を図る。 ・会議や研修等の実施については効率化を図る。 ・業務の効率化を図るよう努め、定期的によりフレッシュデーをより工夫して設定する。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 教職員が、小中一貫教育の重要性についてさらに理解を深め、業務の精選を考慮しながらも、生徒や職員の交流や連携による実践(あいさつ運動)を行う。 ② 小中一貫各部会において、地域学校園内児童生徒の課題を的確に把握・分析し、必要に応じて連携を図りながら、実効性のある取組を推進する。	【達成状況】  ・教職員の肯定的回答が目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・小中乗り入れ授業やあいさつ運動においては、計画通り実施する。 ・各部会において、生徒の実態を把握・分析することで、より効果のある教育活動を実践する。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充	① 学校HPや各種だよりを活用して積極的に情報発信を行い、学校	【達成状況】

5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 75%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	の教育活動に対する理解と協力が得られるようにする。 ② 家庭訪問、保護者会、三者懇談、オープンスクールなど様々な機会を捉えて家庭や地域との連携を図り、よりよい生徒の育成に努める。 ③ 陽西中学校地域協議会との連携を図り、地域の祭りや清掃などの奉仕活動に積極的に取り組む。また、「未来会議」を実施するなど、意見交換の機会を創生する。	0 20 40 60 80 100  生徒 80.1 教職員 84.4 保護者 81 地域住民 87.5 ・生徒・保護者ともに目標を上回っており、教職員の肯定的回答が一番高い。 【次年度の方針】 ・学校HPで学校行事や生徒の様子を発信する。また、学校からの一斉メールを活用して各種便りを発信し、保護者の理解と協力を得る。 ・地域協議会や地域まちづくり協議会と連携したボランティア活動に参加して、地域に貢献できる生徒の活動を推進していく。
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 90%以上	① 安全点検を、毎月確実に行うとともに、改善箇所の修繕を迅速に実施する。また、避難訓練の実施方法を見直し、より実践的な態度の育成を図る。 ② 台風や地震、大雨などの自然災害発生時には、校舎内外の巡視を行い、危険回避に努めるとともに、危険箇所の発見と早期対応ができるようにする。 ③ 事務部と連携して、学校予算の適切な運用を図り、環境整備に努める。	【達成状況】 0 20 40 60 80 100  生徒 教職員 82.2 保護者 82 地域住民 100.0 ・教職員の肯定的回答が目標より低く、昨年度比でも 10%以上下がっている。 【次年度の方針】 ・安全点検を毎月確実に実施し、破損箇所等の把握や修繕を行う。業者依頼する事案については、学校予算等を有効に活用して迅速に対応する。 ・予告なし避難訓練の実施など、より実践的な訓練の実施し、災害時に適切に判断し、行動がとれる生徒を育成する。 ・これまで同様、事務部との連携を図り、環境整備を行っていく。 ・特別活動等を活用して安全指導を強化し、生徒の安全への意識向上を図る。
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 1人1台端末に関する研修に積極的に参加し、教科部会等校内研修で共通理解を図るなど、授業で効果的に活用できるように努める。 ② 全生徒対象の「PCの日」を利用して、計画的なスキルアップの機会を設ける。	【達成状況】 0 20 40 60 80 100  生徒 教職員 84.4 保護者 地域住民 ・教職員の肯定的回答が目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・入学時には「総合的な学習の時間」などを利用し、生徒がICT機器をスムーズに利用できるよう、知識及び技能を習得させる。 ・授業の中で生徒がICT機器を主体的に活用し学習する場面を、より計画的に設定する。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 90%以上	① 時と場に応じた心のこもったあいさつの仕方についての指導を充実させるとともに、本校のよき伝統として継承していく。 ② 日常生活の中でのあいさつ指導に加え、生徒会各委員会や部活動等による、生徒主体のあいさつ励行を推進する。	【達成状況】  生徒 95.7 教職員 55.6 保護者 84 地域住民 87.5 ・生徒の 95.7%は肯定的に捉えているが、教職員は 55.6%と目標を大幅に下回っており、生徒と教職員の認識には大きな差がある。 【次年度の方針】 ・生徒は、時と場に応じた明るくさわやかなあいさつができる。本校の伝統的なよさとして継承する雰囲気醸成されている。 ・地域学校園小中合同あいさつ運動を行う等、あいさつの活性化を図る。 ・日常生活における継続的なあいさつ指導に加え、生徒会活動等を通して、生徒の主体性を高めるよう、感染防止対策を講じながら、計画的に実施する。
	B 2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① チャイム着席、授業の開始・終了時のあいさつができるようにするとともに、服装や姿勢を整えて授業に臨めるよう指導する。 ② 教職員の共通理解、共通指導の充実を図る。 ③ 学業指導の充実とともに、きまりの遵守やマナー向上の意識を高めさせる取組を、生徒の主体的な関わりを増やすよう工夫する。	【達成状況】  生徒 96 教職員 33.3 保護者 70 地域住民 100.0 ・生徒の 96%は肯定的に捉えているが、教職員は 33.3%と目標を大幅に下回っており、生徒と教職員の認識には大きな差がある。 【次年度の方針】 ・教師の率先垂範を基本とするとともに、教職員の共通理解・共通指導の徹底を図り、ルール作成等に生徒の主体的な関わりを増やす取組を工夫することで、引き続き規範意識向上の醸成を図る。
	B 3 生徒は、時間を守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 教職員の肯定的回答 ともに 80%以上	① 登校時間や授業開始時刻など、「3分前着席」を意識して生活できるよう指導する。 ② 生活委員会や学級委員長を中心に生徒自身の自治の力がつくよう指導の工夫を図る。	【達成状況】  生徒 92.0 教職員 48.9 保護者 77 地域住民 100.0 ・生徒の 92%は肯定的に捉えているが、教職員は 48.9%と目標を大幅に下回っており、生徒と教職員の認識には大きな差がある。 【次年度の方針】 ・チャイム 3 分前着席の励行等、リーダーを中心に主体的に継続した取組を行う。

B4 生徒は、交通ルールを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 85%以上	① 教職員による登下校時の交通指導や見守りをより充実させる。また、交通ルールの遵守や交通マナーの向上について、生徒の主體的な関わりを意図的に設定するなど、学年や学級で繰り返し指導する。 ② 生徒の意識を高めるために、交通安全教室に外部指導者を招聘するなど、内容を工夫する。	【達成状況】  ・生徒の99%は肯定的に捉えているが、教職員は53.3%と目標を大幅に下回っており、生徒と教職員の認識には大きな差がある。 【次年度の方針】 ・登下校指導の徹底や通学路調査などを実施し、生徒の安全に関する意識を高める取組を行う。 ・生徒の意識をより高めるため、安全指導内容の工夫改善や、生徒主体の取組の実施を検討する。 ・立哨指導を継続して行い、規範意識の向上を図る。また、交通ルール遵守やマナー向上にむけた意識の醸成を図る。
B5 生徒は、体育祭、文化祭など学校行事に積極的に参加し、協力して活動している 【数値指標】 全体アンケート 生徒・保護者の肯定的回答 90%以上	① 自主的・実践的な態度を育むため、体育祭や文化祭等の学校行事に、生徒の意見や創意工夫を取り入れるようにする。 ② 地域のボランティア活動を推進するための働きかけを積極的に行うとともに、活動の成果を掲示するなどして、生徒の自己有用感を高める。	【達成状況】  ・保護者・教職員は約96%と高いが、生徒は肯定的回答が88.2%と目標を下回っている。 【次年度の方針】 ・時期や方法などを十分に検討し、立案の段階から生徒の自主性を引き出すような工夫を図る。 ・学校行事等では、より充実感の味わえる行事の設定について、教職員の共通理解のもとで再検討する。
B6 学校は、授業以外に様々な学習の場を工夫して設定し、学力向上に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 85%以上	① 基礎学力の定着、学力の向上を目指し、放課後のレベルアップ学習、夏休み学習サポートを実施する。実施方法に改善を加え、より効果的な運営に努める。 ② 地域協議会と連携した、学力向上のためのサポート事業を企画、運営する。	【達成状況】  ・保護者の肯定的回答が74.6%と目標を大幅に下回っている。 【次年度の方針】 ・レベルアップ学習、夏休み学習サポートを継続し、更なる基礎学力の定着、学力の向上を目指す。 ・地域協議会と連携し、運営方法や実施方法等について再検討する。

B7 学校は、教室や廊下の 掲示物を工夫したり、花壇 を整備したりして、環境美 化に努めている。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 90%以上	① 生徒の心を育てるための、「フラ ワープロジェクト」を推進する。 ② 美化委員会及び、各学年委員会を 中心とした役割分担を明確にし て、主体的に活動に参加できるよ うにする。 ③ 各学年フロアの掲示物を工夫し ながら、計画的に作成する。	【達成状況】  <table><tr><th>対象者</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>生徒</td><td>79.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>84.4</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.1</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr></table> ・保護者の肯定的回答は 87.1%と目標より低く、生徒や教職員も低い。 【次年度の方針】 ・校内の掲示物を定期的に更新し、各学年にフラワープロジェクトなどの校内環境美化に力を入れる。 ・心が温かくなるような掲示物や花壇の整備を生徒主体で実施し、豊かな心を育む。 ・美化委員会や学年委員会を中心として、学校環境をよくするために生徒が主体的に活動を行うようにする。 ・校内の環境整備を強化し、各学年フロアの掲示物を計画的に作成する。	対象者	達成率 (%)	生徒	79.9	教職員	84.4	保護者	87.1	地域住民	100.0
対象者	達成率 (%)											
生徒	79.9											
教職員	84.4											
保護者	87.1											
地域住民	100.0											

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【昨年度比の結果】

<昨年度比で 5%以上上回った項目>

- ・生徒：A6「生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」68.8⇒75.7 (6.8%↑)
- ・教職員：A17「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」81.4⇒86.7 (5.3%↑)
- ・地域：A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり明るくいきいきとした雰囲気である。」80⇒100 (20%↑)

A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」80⇒100 (20%↑)

他 8 項目

<昨年度比で 5%以上下回った項目>

- ・教職員 A9「生徒は『持続可能な社会』について、関心をもっている。」65.1⇒37.8 (27.3%↓)
- A1「生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」72.1⇒46.7 (25.4%↓)
- A5「生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」76.7⇒53.3 (23.4%↓)
- A2「生徒は、思いやりの心をもっている。」69.8⇒48.9 (20.9%↓)
- B2「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」53.3⇒33.3 (20.2%↓)
- B3「生徒は、時間を守って、生活をしている。」67.4⇒48.9 (18.6%↓)
- A3「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」72.1⇒55.6 (16.5%↓)
- A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」97.7⇒84.4 (13.2%↓)
- A15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」95.3⇒82.2 (13.1%↓)
- A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」95.3⇒82.2 (13.1%↓)
- A8「生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」83.7⇒73.3 (10.4%↓)

他 8 項目

- ・保護者 B2「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」79.9⇒69.8 (10.1%↓)
- A8「生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」70.3⇒61.2 (9.1%↓)
- A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」71.4⇒63.8 (7.6%↓)
- A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」88.9⇒82.5 (6.5%↓)

他 3 項目

- ・地域 A2「生徒は、思いやりの心をもっている。」100⇒87.5 (12.5%↓)

【教職員と生徒の結果で 40%以上差があった項目】

- B 2 「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 62.9%差
- B 4 「生徒は、交通ルールを守って、生活をしている。」 45.7%差
- A 9 「生徒は『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 43.8%差
- A 1 「生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」 43.4%差
- A 2 「生徒は、思いやりの心をもっている。」 43.3%差
- B 3 「生徒は、時間を守って、生活をしている。」 43.1%差
- B 1 「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」 40.2%差

→ 生徒の肯定的な回答率が高いが教職員が低い項目について、生徒のどのような姿であれば教職員が満足できるか、その姿へ近づくための方策を見出したい。

＜生徒指導＞

- ・「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」について、肯定的回答が生徒は昨年度よりも 2.5 p 高い 96.2%であったが、教職員は昨年度よりも 20.2 p 低い 33.3%で、生徒と教職員の差は 62.9 p、保護者は昨年度よりも 10.1 p 低い 69.8%であった。
- ・「生徒は、交通ルールを守って、生活をしている。」について、肯定的回答が生徒は昨年度よりも 3.1 p 高い 99.1%であったが、教職員は昨年度よりも 7.1 p 低い 53.3%で、生徒と教職員の差は 45.7 p、保護者は昨年度よりも 6.7 p 低い 81.6%であった。
- ・「生徒は、時間を守って、生活をしている。」について、肯定的回答が生徒は昨年度よりも 4.0 p 高い 92.0%であったが、教職員は昨年度よりも 18.6 p 低い 48.9%で、生徒と教職員の差は 43.1 p、保護者は昨年度よりも 8.4 p 低い 76.9%であった。
- ・「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」について、肯定的回答が生徒は昨年度よりも 0.1 p 低い 95.7%ではほぼ変わらず。教職員は昨年度よりも 7.2 p 低い 55.6%、生徒と教職員の差は 40.2 p で、保護者は昨年度よりも 1.2 p 高い 83.7%であった。

＜特別活動＞

- ・「生徒は『持続可能な社会』について、関心をもっている。」について、肯定的回答が生徒は昨年度よりも 0.7 p 高い 81.6%であったが、教職員は昨年度よりも 27.3 p 低い 37.8%で、生徒と教職員の差は 43.8 p であった。

＜学習＞

- ・「生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」について、肯定的回答が生徒は昨年度よりも 1.4 p 高い 90.1%であったが、教職員は昨年度よりも 25.4 p 低い 46.7%で、生徒と教職員の差は 43.4 p、保護者は昨年度よりも 5.7 p 低い 73.6%であった。

＜学習・特別活動＞

- ・「生徒は、思いやりの心をもっている。」について、肯定的回答が生徒は昨年度よりも 2.7 p 高い 92.2%であったが、教職員は昨年度よりも 20.9 p 低い 48.9%で、生徒と教職員の差は 43.3 p、保護者は昨年度よりも 4.2 p 低い 85.5%であった。

7 学校関係者評価

【各部会検討内容】

- ・「生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」では、ALT が中心となって、昼休みの英語の読み聞かせを行い、英語の授業では工夫して楽しみながら英会話を行ったことから向上したと考えられる。
- ・「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」では、計画的に会議を行い、小学校と情報を共有したことを教科指導や生徒指導に活かすことができた。
- ・生徒と教職員の評価に大きな差があった4項目（B 1、B 2、B 3、B 4）については、生徒は現状に満足している傾向にあるが、教職員は改善の余地や必要性を感じており、教職員が目指す「生徒の姿」を改めて生徒に伝え、同じゴールを見据えて改善を図ることが重要である。
- ・「時間を守る」については、授業開始時に全員が着席するところから徹底する。教職員だけでなく生徒同士の声掛けを行いながら、主体的に動けるような風土づくりが必要である。
- ・「時と場に応じたあいさつ」は、授業開始と終了時のあいさつを立礼で心を込めてしっかり行う。廊下

ですれ違う際は目上の人や来校客に対して積極的にあいさつができるようにする。

- ・教職員は率先垂範に心掛け、授業開始時には教室で見本をみせるとともに、廊下でも積極的に声をかけることで生徒が声を発しやすい雰囲気を作る。

- ・教職員がチームとなり、指導方針を共有しながら役割を果たし、一貫性のある指導に心がける。

- ・交通ルールは、マナー違反やモラルが欠如している生徒に気づかせる指導が必要である。そのために、全体指導だけでなく、学級単位や個別に指導することが有効である。

- ・持続可能な社会の実現については、SDG s の取組をすでに行っていることを自覚させるとともに、生徒会活動（専門員会）が主導で実施できるようにする。

- ・学習についても上記と同じで、生徒は現状に満足している傾向にあるが、教職員は学年全体や他校との比較のより改善の余地や必要性を感じている。

- ・学習面では能力差があることから、個別最適な学びの実現と、主体的に取り組む態度の習得を目指し、ICT の有効活用や話し合い活動の充実、スモールステップでの授業実践が必要である。

- ・教師の授業力の向上はもとより、集中できる環境づくりが必須である。

- ・「生徒は思いやりの心を持っている」については、今年度、道德教育の推進や清掃活動の充実に取り組んだが、日々の言葉遣いや偏った人間関係など、実践に結びつくまでには至らなかった。次年度も継続して、道德教育の推進と心を育てる実践教育に重点をおき、社会に出た際により良い人間関係づくりを学ばせたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度は、多くの項目で教職員や保護者の肯定的回答率が下がっている傾向にあるが、地域住民からは10項目で5%以上（昨年度比）の肯定的回答を得ることができた。その要因として、体育祭などの学校行事、授業見学、ミシンボランティアの生徒たちの姿など、生き活きと活動している姿を見学できたことで高い評価を得ることができた。次年度も中学校の取組を発信していきたい。

ただし、地域住民から登下校時の挨拶や普段の言葉かけなど、防犯的な視点から難しい面があるとの意見もあった。そこで次年度は、今年度実施した「学校見守りたい」を保護者だけでなく地域住民の参加も促し、登下校時の見守り（交通ルールの遵守）や学校安全にご協力いただきながら、地域住民と生徒との関係性の構築に努めたい。

また生徒は、教職員が課題として捉えている項目、特に「きまりやマナーを守って生活をしている。」「交通ルールを守って生活をしている。」「時間を守って生活をしている。」「時と場に応じたあいさつをしている。」について逆に高い評価となっている。教職員との意識の差が大きいことが伺える。

次年度は、生徒の課題意識を育み、教職員の指導の工夫や率先垂範を実行する。

さらには、今年度取り組んだ道德授業の推進については次年度も継続して取り組み、対話活動や振り返りなどを工夫することで実生活に生きる道德の推進を目指す。

「持続可能な社会について関心を持っている」については、次年度、生徒会が主体となって、実現可能な小さな取組から計画的に取り組めるようにする。そしてその取り組みがSDG sにつながることを意識できるように発信していく。

学習面では個別最適な学びの実現に向けて、ICTの有効活用やスモールステップでの学力向上に向けた支援を工夫し、粘り強く自分の進路実現に向けて取り組めるようにしていく。